

「誰一人取り残さない」学術に向けて

～ジェンダーとインターセクショナル리티の視点から

伊藤公雄 京都大学・大阪大学名誉教授
／国立女性教育会館監事



伊藤 公雄 京都大学・大阪大学名誉教授

【プロフィール】

- 1951年生まれ。京都大学文学部・同大学院博士課程で社会学専攻。その後、イタリア政府給費留学生としてミラノ大学政治学部留学。大阪大学人間科学部助教授・教授を経て、京都大学院文学研究科・文学部教授、京都産業大学客員教授・ダイバーシティ推進室長、関西社会学会会長、日本スポーツ社会学会会長、日本ジェンダー学会会長、日本社会学会会長、大阪府・滋賀県の男女共同参画審議会会長、第23-4期（2014-20）日本学術会議会員などを歴任。

現在、京都大学・大阪大学名誉教授、国立女性教育会館監事、京都府男女共同参画審議会会長、姫路市男女共同参画審議会会長、一般社団法人チェンジングメン共同代表など。

著書に『<男らしさ>のゆくえ』『男性学入門』『「男女共同参画」が問いかけるもの』『ジェンダーの社会学』『女性学・男性学 第3版』など、共編著に『新編 日本のフェミニズム』全12巻など。

- 専門は文化社会学、政治社会学、ジェンダー論。

はじめに

歴史の大きな転換点を前に

デジタル・トランスフォーメーションと生成AIの時代

社会の多様化・複雑化の増大

他方で、多様性や複雑性に耐えられない人々の登場

単純化（多様なものを「一つ」にまとめあげ）し統

制しようという強権発動の浮上

学術に問われている課題

科学技術や学術研究は、この状態にどのように対応すべきかが問われている

文化社会学・政治社会学・ジェンダー論の視点
から考察を加えたい

1 「近代社会」の学としての社会学

社会学の登場 19世紀半ばのヨーロッパ
背景にあるのは「近代社会」の登場
宗教革命・科学革命・市民革命、
さらに産業革命の生み出した社会
20世紀後半以後、近代社会の大きな変容が

そもそも近代社会とは何か？

前近代社会から近代へ

前近代社会 その多様性と均質性

地域的多様性 その地域地域で異なった生活様式

地域内の均質性・親密性 狭い共通空間、具体

的で直接的な人間関係

↳五感（視覚・聴覚・触覚・嗅覚・味覚）全て

による具体的なコミュニケーション

近代社会の登場

近代社会 多様性の広がり

分化と平準化の進行

社会的諸機能の分化・専門化・多様化

人間の原理的平等性(白人男性間の平等から始まる)「個人」の時代の開始

自由と平等の原理 近代個人主義の原理として

→他方でエゴイズムと欲望の規制の弱体化

近代社会 = 性別が強調された社会

地域を超えた均質性

↳産業化による社会の編成の「均質化」

(各地域の一定の多様性は残しつつ)

ジェンダーの視点 オス、メスの二分類を強調する社会

前近代以上に生物学的な性差の強調が

ワンセックスモデル (女性は男性未満の存在) から

ツーセックスモデルへ (T. ラカー)

労働におけるジェンダーによる近代的な性別分業

男性 = 生産労働 = 有償労働 女性 = ケア労働 = 無償労働

変容する人間関係

生活空間の多様性・複雑性

交通の発展・メディア社会の深化

→（間接的な）共通空間の拡大

（現代は共通空間はグローバル化）

具体的なFace to Faceの関係を越えた間接的な人間
関係の広がり

↳五感全てから視覚（活字や図像）に重きを置く社
会の発展（M・マクルーハン）

2 産業と文化の変容の中で

4つの産業革命と社会変容

第一次産業革命 蒸気機関の発明と交通網の発達

第二次産業革命（20世紀に入って発達）

電気エネルギーの登場と大量生産・大量消費の時代へ

第三次産業革命（1970年前後以後）

情報とサービスを軸にした産業の浮上

第四次産業革命（21世紀） AIとIoTの時代

多様性に開かれた社会へ

第三次産業革命と多様なニーズの浮上

製造業中心社会＝基幹労働力としての「健常な」男性を基準とした社会から

情報やサービスを軸にした産業の主流化へ

↳ 「健常な」男性を軸にした社会から、多様な属性を持った人たちのニーズの急浮上

(それまで見えなかった) 社会的マイノリティの人権問題の浮上

性別、肌の色、障害の有無、先住者、外国人、年齢、宗教などによる差別や排除の撤廃

→多様性に関わられた社会へ

3 ジェンダード・イノベーションへ

男性化されていた科学技術・学術の見直し⇔社会の多様化・複雑化

Cf.カトリーヌ・キラス＝マルサル『これまでの経済で無視されてきた数々のアイデア』 男性基準のテクノロジーの発達

スーツケースのキャスターの発明 1970年前後

⇔男は重い荷物を持つのが当然という文化

19世紀末 自動車（馬なし馬車）の発明 ガソリン自動車vs電気自動車か

複雑で使い勝手の悪いガソリン車の勝利

⇔「女の乗り物」としての電気自動車の否定

ジェンダー視点を踏まえた科学技術・学術へ

EV車の発明はガソリン車よりも早かった！



写真① 1900年パリ万博に出展されたローナーポルシェ

無知学 (Agnotology)の視点

無知学 agnotology (L. シービンガーら)

西洋から見捨てられた (ないものとされた)

植民地の人々の知識や経験の存在

文化的・政治的に生まれた「無知」の研究

↳ ジェンダーの視点が明らかにしたものの一つ
男性主導社会の中で「見えないもの」「存在しないもの」とされてきた女性の知識や経験

変容する科学技術： ジェンダードイノ ベーションの可能性

- ▶ **ジェンダーに敏感な視点からのイノベーション**
- ▶ 米スタンフォード大学の科学史研究者であるロンダ・シービンガー 教授の提案により、現在、EUなどでの科学技術イノベーションの基本的な視点になっている

Gendered Innovations in Science, Health & Medicine, Engineering, and Environment

Home | Contributors | Links | Translations | Contact Us | Search The Site

What is Gendered Innovations?

SEX & GENDER ANALYSIS

- General Methods
- Specific Methods
- Terms
- Checklists

CASE STUDIES

- Science
- Health & Medicine
- Engineering
- Environment

INTERSECTIONAL DESIGN

POLICY RECOMMENDATIONS

VIDEOS

How to cite website

HEALTH & MEDICINE
Sex and Gender Methods for Research | Gendered Innovations

ENVIRONMENT
ENGINEERING
HEALTH & MEDICINE
SCIENCE

Why Gendered Innovations?
Gendered Innovations employs methods of sex, gender, and intersectional analysis to create new knowledge.

FEATURED CASE STUDIES

- Marine Science: Analyzing Sex**
- Chronic Pain: Analyzing How Sex and Gender Interact**
- Facial Recognition: Analyzing Gender and Intersectionality in Machine Learning**



ロンダ・シービンガー

スタンフォード大学教授

European Research Executive Agency

[Home](#) | [Funding and grants](#) ▾ | [Working for REA](#) ▾ | [About REA](#) | [News](#) | [Events](#)

[European Commission](#) > [European Research Executive Agency](#) > [Gender in EU research and innovation](#)



The European Executive Research Agency (REA) has prepared an information package and series of Q&As below for how to apply or comply with Horizon Europe funding principles. This may help you to successfully navigate and implement your Horizon Europe project if your proposal is selected for EU funding.

研究資金獲得にジェンダー視点の導入がデフォルトに



ジェンダード・イノベーション

過去に性差が見落とされてきた例

シートベルトの設計	骨粗しょう症の診断方法	機械翻訳プログラム
<p>男性の体型を前提に開発 ⇒妊婦が事故に遭った場合、 胎児が死亡するケースが多い。</p> 	<p>女性を対象として診断法が確立 ⇒骨粗しょう症と診断されない 男性患者が多く存在。</p> 	<p>人の標準を男性に設定 ⇒女性の名前を「彼」と 翻訳することが多い。</p> 

- ▶ 科学技術研究の中で見落とされていたジェンダー&セックス問題
- ▶ →結果的に人間社会にマイナスな面を生み出すこともあった
- ▶ 逆に、この視点からあらゆる人々に貢献可能な科学技術開発が

👉 日立コンサルティング ナレッツ
ジコラム 2022年1月 より

ジェンダード・イノベーションの視点

セックス（生物学的性差）とジェンダー（社会的・文化的に構築された性別）のみならず、インターセクショナリティ（人種、エスニシティ、階級、宗教、心身の障害のある無し、世代などの交差性）の視点も踏まえつつ、科学技術におけるイノベーションを目指す。

- ①生物学的性差（セックス）の視点
- ②ジェンダーの視点（社会的・文化的に構築された性別）
- ③交差性（インターセクショナリティ）の視点
（シービングー）

ジェンダード・イノベーションの戦略

①女性及び社会的に「これまで見えにくかった」集団の参画を進めることで、社会の担い手の「**数を適正化する**」こと

②研究組織の構造変革を通じて、キャリアにおける包摂的平等を促進するために「**制度を適正化する**」こと

③セックス、ジェンダーとインターセクショナルリティ分析を研究の中へと統合していくことで、科学技術における卓越性を活性化するために「**知識を適正化すること**」（シービングー）

誰一人とり残さない学術へ向けて

ジェンダーの視点からインターセクショナルリテ
ィの視点への意味するもの

「健常な」男性基準から

すべての人（特にこれまで「周縁」に置かれてき

た人たちへの注目） 人文社会科学も同様に

「誰一人取り残さない」（SDGs）科学技術・学術へ

おわりに 当事者たちとの共同の重要性

見失われ無視されてきた人々の声からイノベーションを生み出す。

「当事者」との相互コミュニケーションとコ・プロダクション、コ・クリエーションの必要性

→インターセクショナルリティなイノベーションへ

多様化した社会、多様なニーズに対応しうる科学技術・学術と制度設計へ

⇐多様性に耐えられなくなりつつある現代社会への対応のために